



岐阜市立女子短期大学  
Gifu City Women's College

# Staff Profile 2022

## 岐阜市立女子短期大学 Staff Profile 2022

### 目次

教員プロフィール発刊にあたって .....	01
岐阜市立女子短期大学について .....	02
英語英文学科 教員プロフィール .....	03
国際文化学科 教員プロフィール .....	11
食物栄養学科 教員プロフィール .....	17
生活デザイン学科 教員プロフィール .....	25

# 教員プロフィール 発刊にあたって

本学は、「戦後の復興は女子教育から」の理念の下に 1946 年に設立され、女性人材の高等教育機関として 76 年の歴史を刻みながら、既に 1 万 7 千人を超える有為な人材を社会に送り出してきました。現在の校舎に移転した 2000 年以降、英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科の 4 学科編成を維持しており、入学定員は毎年 230 名、教員数は 37 名と、公立ならではのきめの細かい少人数教育を実現させています。

一方では、変貌する国内外の社会状況を鑑み、2018 年に文部科学省の中央教育審議会から「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」が示されました。その中では、2040 年の社会的展望のほか、必要とされる人材と高等教育の目指すべき姿や教育研究体制、18 歳人口の減少を踏まえた高等教育機関の規模や地域配置、あらゆる世代が学ぶ「知の基盤」としての役割が示されています。

本学では教職員が一丸となり、上記のグランドデザインを踏まえたうえで、また外部有識者の方々の声もお聴きしながら「岐阜市立女子短期大学ビジョン-岐女短発 10 年後に向けた提言-」を 2020 年 12 月に取りまとめました（[本学 HP > 情報公開 > 運営委員会報告書](#) をご参照ください）。その中で、女子教育の重要性と共に、本学の役割として以下の点を確認しています。

## ○公立大学としての役割

地方公共団体の人材養成等の各種政策をより直接的に体現・教育する役割、教育機会の均等の実現、地域活性化の推進、行政課題の解決

## ○短期大学としての役割

地方の進学機会の確保、高齢者も含めた社会人へのリカレント教育を通じた地域貢献

また魅力ある教育内容を追求するため、本学の発展の方向性として、短期・中期的に以下のイメージを持って取り組みを進めることとしました。

- ① グローバルコミュニケーションをイメージする学科への改編
- ② 人生 100 年時代に向け、食による健康や医療等との連携をイメージする学科への改編
- ③ AI 時代の人間性・ヒューマンスキルを磨くことをイメージする学科への改編
- ④ 学科を横断する岐阜学（仮称）コースの新設

本冊子は、本学の全教職員が一丸となって進めている上記のような取り組みの中で、ステークホルダーの方々にぜひ知っていただきたい全教員のプロフィールと最近の活動紹介を取りまとめたものです。皆さま方と本学教員の新たなコミュニケーションの一助になればと願っています。

## 学長 畑中 重光

### 専門分野

建築構造学  
コンクリート工学  
建築防災工学

### 学位・資格

博士（工学）

研究者情報  
(Research Map)



# 岐阜市立女子短期大学について

## 大学のあゆみ

本学は、1946年に東海地区で最初の公立女子専門学校としてスタートしました。その後、男女共学の岐阜専門学校となり、その翌年には岐阜短期大学となりました。そして1954年に女子のみの岐阜女子短期大学となり、1988年に岐阜市立女子短期大学と改称し、現在に至っています。本学は「岐女短」の愛称で地域に親しまれており、これまで数多くの優れた人材を世に送り出してきました。2000年にキャンパスを移転して最新の施設・機器を備え、2022年には開学76周年を迎え、学生の「学びと成長」のために充実した環境と教育を提供します。

## 沿革

- 1946年 岐阜女子専門学校としてスタート  
(英文科・生活科・被服科)
- 1949年 岐阜専門学校に改称
- 1950年 岐阜短期大学設置  
生活科、被服科を家政科に統合
- 1954年 岐阜女子短期大学に改称
- 1955年 家政科を改組して生活科・被服科を増設
- 1969年 英文科を英文学科、  
生活科を食物栄養学科、  
被服科を被服学科に学科名変更
- 1988年 岐阜市立女子短期大学に改称
- 2000年 キャンパス移転  
国際文化学科を新設  
英文学科を英語英文学科、  
被服学科を生活デザイン学科に学科名変更

## 教育機関組織 (2022年4月時点)



# 英語英文学科

Department of English

教授	大澤 聡子
教授	森藤 庄平
准教授	小島 ますみ
准教授	ランダル・コットン
専任講師	鈴木 辰一
助手	川合 真由美



## 教授 大澤 聡子

## 専門分野

英語学  
英語教育学

## 学位・資格

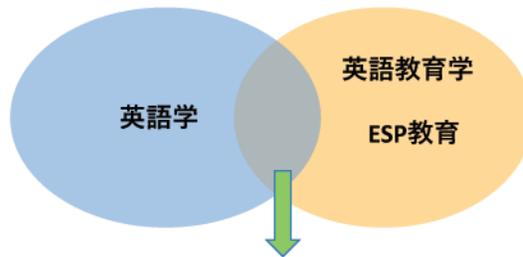
修士（英語教育学）  
中学校教諭専修免許状  
高等学校教諭専修免許状

## 専門分野と社会との関わり

現代英語のしくみ、特に英文法について研究しています。高校までの学校文法では扱っていない構文、語法などについてその背景にある理論を説明し、英文法の「なぜ？どうして？」にお答えすることで、より良い英語運用能力へつなげます。

医療系大学で「医療英語」の授業を担当した経験があり、特に看護師・薬剤師が医療現場で使用する実践的な英会話の指導ができます。

薬剤師のための実践的英会話のテキストを作成した実績を活かし、特定職業のための英語教材を作成することができます。英語を必要とする職業現場へ出向き、ニーズとして想定される会話を調査し、英語教材を作成します。



- 英語学の知識に裏打ちされた学校教育
- 特定の職場で使われる英語（ESP）の教材開発

## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

## ESP 教育と教材開発

英語学と英語教育学を専門としていますが、過去 3 年間は特に英語教育に注力し、医療関係の英語教材の開発と出版、また出版した教材を使った授業実践報告と今後の教材開発へ向けた研究を行いました。職場などで特定の目的で使われる英語は ESP(English for Specific Purposes) と呼ばれ、国内でも英語対応の場面が増える中、様々な職場で ESP 教材が必要とされています。



『薬学英語の練習帳』  
(崩文書林)

## 地域貢献活動

## 公開講座等での地域貢献

地域貢献として、現代英語の仕組み、特に英文法について知りたい方に向けた公開講座等に取り組みたいと考えています。高校までの学校文法では扱っていない構文、語法などについてその背景にある仕組みや理論を解説し、英文法の「なぜ？どうして？」にお答えします。英語について本質的な理解を深めることは、有意義な英語コミュニケーションへつながります。



教授 森藤 庄平

## 専門分野

英語学 (英文法)

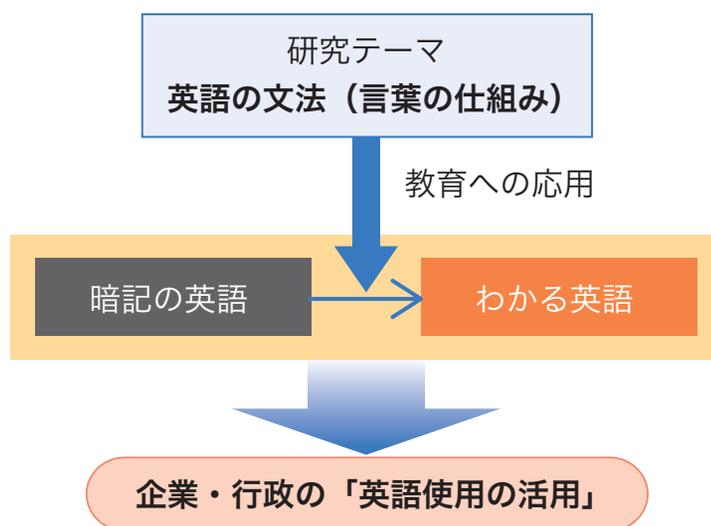
## 学位・資格

博士 (学術)

研究者情報  
(Research Map)

## 専門分野と社会との関わり

英語の文法 (言葉の仕組み) を研究しています。この研究を教育に応用して学生に英語を暗記させるのではなく、理解させることに重点を置いた授業を行っています。こうした『「暗記の英語」から「わかる英語」への橋渡し』をして、企業・行政の「英語使用の活用」に取り組みたく思っています。



## 最近の活動紹介

## 教育活動 / 研究活動

## 内容理解の確認と理解の促進

教育について心がけていることは、授業が教員側からの一方的なものにならないよう、学生の視点に立ち、彼らの反応を意識しながら授業を進めることです。毎回の授業で、ポイントごとに、学生一人一人に理解しているのかを質問などで、巡回して確認しています。学生に、授業の内容を言わせたり書かせたりすることにより、理解度がわかり、場合によっては補足説明することが可能になります。

## マルチメディア機器を活用した授業方法

マルチメディア機器を積極的に用い、映画・音楽等を使用した授業を行っています (例えば「英会話」「コミュニケーション」など)。特に映画を活用する授業を展開しており、教授法を研究し実践しています。どの映画を選ぶのか、どのように映画を活用するのかという点に留意して授業を行っています。(例えば、『ローマの休日』でアン女王が用いた You may sit down の may の語法の指導)

## 地域貢献活動

- ①「暗記の英語」から「理解の英語」への橋渡し
- ②マルチメディア機器を活用した授業方法
- ③内容理解の確認と理解の促進

を基にした、高校・中学校などに出前授業・または市民の皆様へ公開講座などで、お役に立てればと思っております。

## 【専門分野を生かした地域貢献】

**出前授業の実施**  
高校生・中学生向け

**公開講座の開講**  
一般市民向け

## 専門分野と社会との関わり

英語学習者のライティング力を説明する要因について、研究しています。英語教育の目標の一つに、自分の考えを英語で表現できる実践的コミュニケーション能力の育成があげられます。そのような能力評価の一環として、英語学習者のライティング力を分析したり、評価したりすることは、今後ますます重要になると考えられます。研究対象としている要因は、語彙や文法知識から、動機付けのような情意面、言語適性や記憶力など多岐に渡ります。また、テキストの言語的特徴からどの程度正確にライティング力を予測できるのかについても、研究しています。



## 准教授 小島 ますみ

## 専門分野

英語教育学  
応用言語学  
第二言語習得論

## 学位・資格

博士（学術）  
修士（教育学）

研究者情報  
(Research Map)



## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

## 英語による発信力を伸ばす教育

アメリカや日本社会の問題を扱った英語の映画やニュースを題材に、本物の英語を聞いて理解するリスニング力や、英語の表現力を伸ばす教育を行っています。音声学に基づく英語の発音やイントネーションを指導し、表現豊かにロールプレイ等の練習を行っています。また、テーマに基づいて必要な情報を収集し、得られた情報を適切に整理・分析し、考察したことを英語で効果的に発表することができる力を育成しています。



## 地域貢献活動

## 「英語音声学入門」

岐阜市と各務原市で、「音声学入門」の出前講座講師に登録しています。2020年度は、岐阜県立本巣松陽高校で、英語音声学の模擬授業を行いました。英語の母音や子音について、どの調音点をどのように使って発音したらいいのか口の内のイラストを使い、実際に発音練習をして学び、英語の早口言葉に挑戦してもらいました。参加した高校生に発表してもらって拍手が起こるなど、楽しい模擬授業になりました。

[æ]

- bag, sat, hand, rash, lampなどの単語に使用。
- 前舌部を前に突き出して少しだけ高くして出す。
- 日本語にない音なので、日本人にとって難しい。

准教授

ランダール・コットン

## 専門分野

英語教育学

## 学位・資格

修士（教育学）

研究者情報  
(Research Map)

## 専門分野と社会との関わり

私は、あらゆる年齢の岐阜市民に対して、英語の授業を構成し、英語を教えることができます。同様に、外国語としての英語を教えている私の経験と知識を活用し、岐阜市内の英語教員を支援することができます。

私は、岐阜市に住む外国人居住者を助けている岐阜市の行政機関を支援することができます。具体的には、最近岐阜に来た外国人が、岐阜での生活がより容易に暮らしやすくなるように、直接サポートすることができます。

日本に住むアメリカ人としての知識と経験を活かして外国の顧客を引き付けたいと考えている岐阜のビジネスを支援することができます。具体的には、英語でウェブサイトを作成したい企業を、英語のウェブサイトのコンテンツを編集したり、アドバイスしたりすることで支援することができます。

## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

英語によるコミュニケーションおよびライティングのスキルを修得する授業では、学生が自然に自分を表現できるようにすることを目指しています。練習とフィードバックを繰り返すことで、学生は自分の考えや経験を英語で伝える自信をつけ始めます。学生は主に英語を勉強していますが、彼女たちが習得したスキルは、クラス外の様々な人々と交流するときにも役立ちます。

## 地域貢献活動

公開講座などの一般市民向けの授業を通じて、海外での考え方や生活についての理解を深めていきたいと思っています。私は、英語を話す文化についてもっと学びたいと思っている老若男女の方々全てに対して、ユニークな学習の機会を提供することができます。

専任講師 **鈴木 辰一**

専門分野

英文学  
(特にシェイクスピア受容史)

学位・資格

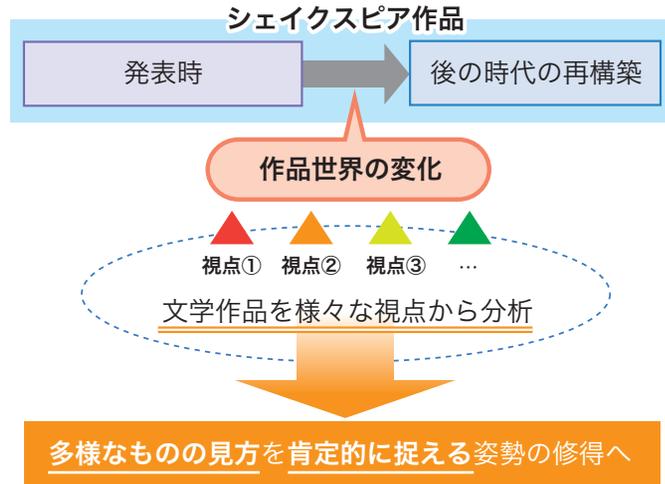
修士 (文学)

研究者情報  
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

シェイクスピア作品が、後の時代に再構築される際に、原作とはどのように異なって作品世界が描かれているのか、そしてそこにはどのような意味が与えられるのかを研究しています。このように、文学作品を様々な視点から眺める行為を実践することで、同じ事物でも視点を変えれば異なって見えることを実感し、多様なものの見方を肯定的に捉える姿勢を身に着ける教育に力を入れています。

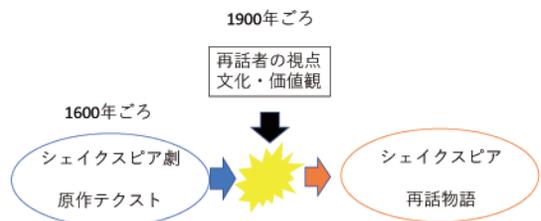


最近の活動紹介

教育活動／研究活動

子供向け物語として再話されたシェイクスピア劇の研究

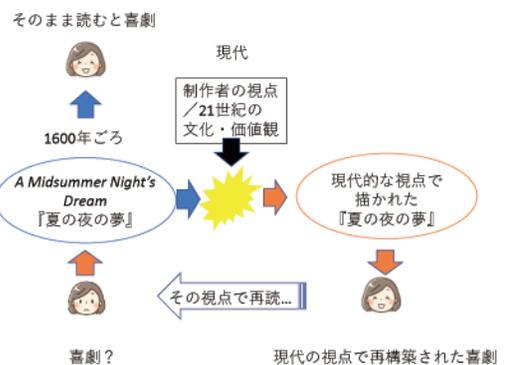
今から約 400 年前のイングランドで活躍した劇作家ウィリアム・シェイクスピアの作品は、様々な形で世に伝えられてきました。私は、特に 19 世紀末～ 20 世紀初頭のイギリスで数多く出版された子供向けの再話物語を取り上げ、それらが原作とどのように異なって作品世界、登場人物を描いているのかを分析しています。そして、時代背景の変化が作品世界の描写にどのように影響しているのか、また、作品描写を通じて、読者にどのような価値観を提示しているのかを考察しています。



地域貢献活動

公開講座「シェイクスピアが現代文化と出会って」

2021 年度は、400 年前に書かれたシェイクスピア劇『夏の夜の夢』を現代の視点から映像化した映像作品をヒントにしながら、現代的な視点からの再解釈を試みる公開講座を実施します。一つの文学作品を様々な視点から読み直し、様々な解釈を実践できるような講座・ワークショップ等を通して、多様な視点から物事を眺める意識を持つことのできる人の輪を少しずつ広げ、多様な価値観が尊重される世の中を作り上げていくことに少しでも貢献していければと思います。



## 教育・研究・地域貢献等への抱負

学生が授業内容を明確に理解できるよう、内容の理解に後れが見られる学生の対応指導を心掛け、苦手意識を克服できるようサポートしています。特に情報機器の操作に不慣れな学生には個々に対応し、情報系の検定試験対策では、一人一人をチェックし指導しています。

学内で実施するカレッジTOEIC (TOEIC I Pテスト) を年間5回実施し、学生に受験を促し、2年間で全員がスコア530以上、また各々が目指すスコアに近づけるようサポートしています。スコアが伸び悩んでいる学生の相談に乗り、苦手なパートはどこなのか、どんな自己学習をしたらよいのかを考え、モチベーションが上がるような指導を心掛けています。

助手 川合 真由美





# 国際文化学科

Department of Cross Cultural Studies

教授	川上 新二
教授	村中 菜摘
准教授	佐野 真也
専任講師	王 張璋
専任講師	松浦 康之



## 専門分野と社会との関わり

地域社会で実践されている宗教文化について研究しています。これまでの調査地域には韓国と沖縄（伊良部島）があり、それぞれの地域で伝承されてきた宗教文化と地域の人々とのつながりについて調べています。また、岐阜市一日市場で行われている祭礼の現況についても調査し、祭礼を継承していこうとする地元の人々の努力について調べています。



## 教授 川上 新二

## 専門分野

宗教民俗学

## 学位・資格

博士（仏教学）

## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

## 超自然界（神霊、死者）と生者のつながり

人間を取り巻く環境には自然や社会に加えて、超自然という観念的な世界もあります。超自然的な観念の一つに、人間は超自然的存在（神霊や死者）とかかわりながら暮らしているという考えがあります。韓国と沖縄・伊良部島で調査を行い、その地域の人々の超自然的な観念、神霊や死者と生きている人々との交流の状況を調べています。また、韓国では儒教や仏教が死者と生者をどのように結びつけてきたのかについても調べています。



## 地域貢献活動

## 岐阜市一日市場の祭礼の調査

本学が位置する一日市場で行われる祭礼（地蔵尊の祭り、川祭りなど）の現状を、学生と一緒に自治会、住民、郷土史研究会の方々から話を聞きながら調査しています。これらの祭礼を継承していきたいという地域の方々の思いが活かされる方法は何かとの視点から調査しています。調査結果は2018年と2019年のネットワーク大学コンソーシアム岐阜「学生による地域課題解決提案事業」として、学生たちによって発表されました。



教授 村中 菜摘

専門分野

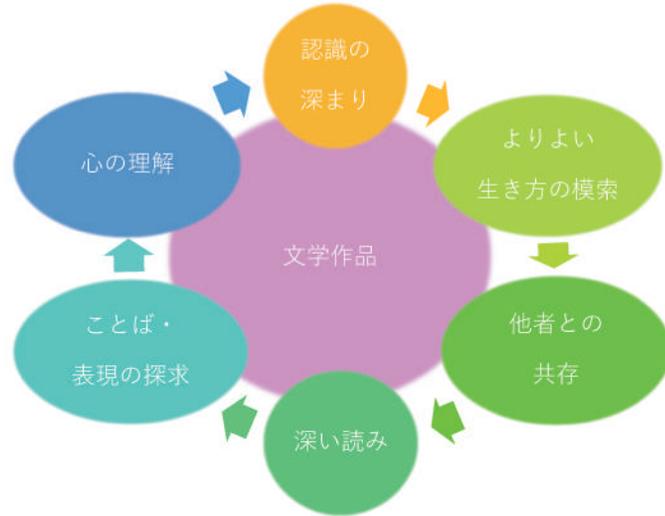
日本文学（中古・中世）

学位・資格

博士（文学）  
日本和装教育協会 師範

専門分野と社会との関わり

日本の古典文学作品に込められた作者の姿勢や登場人物の生き方を読み解くことで、広く心の理解につなげ、普遍的に必要な人間力である「現世をよりよく生きる知恵」を見出す方向性を示します。また、ことばの使い方によって、作品に描かれる対象の本質や人物の内面、作者の意図などをいかに表現しうるかを伝え、日々文学作品に触れてことばを磨くことの重要性を提示します。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

和歌研究から、ことばの魅力を考える

藤原定家の和歌を研究しています。定家は『新古今和歌集』の選者のひとりであり「新古今風」を確立した代表的な歌人です。新しい歌のことばを開拓すると同時に古いものを大切に守り、古典的な世界を取り入れつつ、これまでにない斬新な表現世界を作り上げる定家の姿勢は、『新古今和歌集』を勅撰和歌集のなかで最も芸術性の高いレベルへと引き上げました。私はそうした定家の方法を、歌ことばの選び方や表現の仕方に注目しながら地道に考え続けています。

加えて、定家が、武士の勢力によって天皇制の力を根底から覆した当時の危機的な乱世に、貴族文化の象徴である和歌を後の世へつなごうとした、その芸術家としての姿勢にも魅了されます。

・第13回解釈学会賞（2019年）

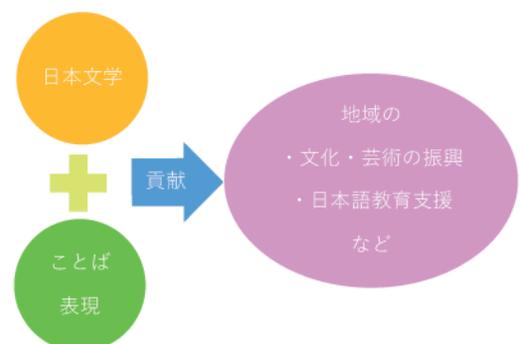
キーワード：藤原定家、物語摂取、漢詩文摂取

地域貢献活動

日本語・日本文学の立場から、地域の文化・芸術・教育に貢献

藤原定家研究の一環として、同時代歌人の間で尊重された『古今和歌集』をはじめとする古歌や『源氏物語』、漢詩文などの日中の古典文学を踏まえつつ、これを取り入れた『新古今和歌集』の歌ことばの魅力や技法の効果を伝える公開講座を担当しました。

新たな分野では、岐阜市美術展覧会実行委員として、日本文学の立場から地域の芸術・文化のさらなる発展に貢献したいと考えています。さらに、これまで日本語表現の科目を担当してきた経験をもとに、地域在住の外国籍の方々などへの日本語教育支援に貢献できるよう、教育活動の幅を広げていきたいと考えています。



専門分野と社会との関わり

スポーツ活動でみられるダイナミックな身体動作の力学的なメカニズムを研究しています。スポーツ活動で用いられる器具や用具の力学特性も研究対象です。両者を併せることで、器具や用具の安全性の評価などに結びついていきます。

准教授 佐野 真也

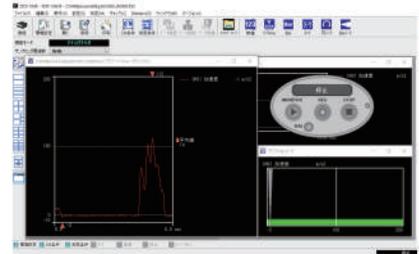
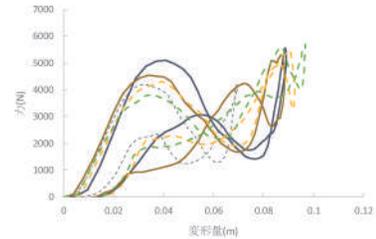
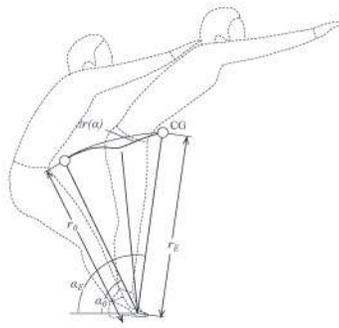
専門分野

スポーツバイオメカニクス  
スポーツ工学

学位・資格

博士（情報科学）  
日本体操協会公認審判員（2種）  
全日本スキー連盟公認準指導員

研究者情報  
(Research Map)



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

体操競技用跳躍板の力学的特性の検証

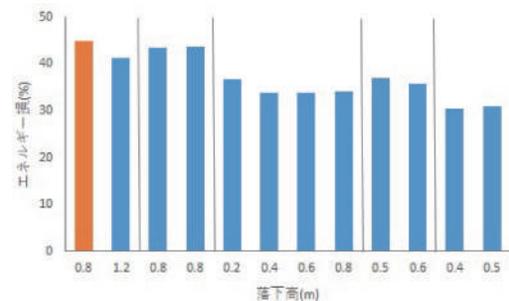
体操競技の種目の一つである跳馬では、跳躍板を踏切動作に用いることで高度な技を実施することができます。跳躍板はレギュレーションに則り一定の基準の元で作られていますが、メーカーによって跳躍板のフィーリングが異なることを選手達は感じ取っています。現在、跳躍板の力学的特性（弾性や緩衝性など）にどのような違いがあるのかということや、それが踏切動作にどのような影響があるのかということなどを明らかにしようとしています。



地域貢献活動

身体動作を力学的視点で捉える

身体動作は、身体の内外に加わる力の大きさや身体各部位の速度の大きさなどを測定すると、見た目だけでは分からない力学的なメカニズムや特徴が分かるようになります。この手法でスポーツにみられるダイナミックな動作を分析して指導やトレーニングに活用しようとする団体等に、どのようなデータが必要かということやデータをどのように解釈し活用するかということの助言などをしてお手伝いすることができます。



専任講師 王 張璋

## 専門分野

異文化経営学  
観光学

## 学位・資格

修士（文学）

## 専門分野と社会との関わり

日本と中国の企業で務めた経験を研究に結び付き、主に企業経営における異文化理解、異文化協力について研究しています。日本企業が中国に進出する時技術の展開及び保護、生産管理の標準化、人材育成、企業文化の現地化などの異文化経営に関する問題に取り組んでいます。それからテーマパーク、テーマホテル等を中心に、観光施設の投資・開発・経営それぞれ地方行政及び地方経済との関わりや、SDGs に沿った方向性と課題についても研究しています。



## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

## 日本企業文化の中国海洋テーマパークでの実践

私は今年4月岐阜短赴任まで中国のテーマパークで約5年間働きながら、大学で日本の企業文化を教えていました。テーマパークは自分の研究対象の一部ですので、資料収集や、現地調査の面で非常に恵まれていました。日中海洋動物共同研究プログラムに参加ができて、海洋テーマパークの設計と建設、海洋動物の飼育、繁殖、保護および経営戦略まで日本の企業理念を参考に、アイデアなどを織り込んでいきました。研究結果の一部を本として昨年出版しました。



## 地域貢献活動

## 企業の中国進出や地域振興に役立ちたい

中国の勤務先から研修生の日本派遣を提案し、日本側との連携や研修生の引率と彼らの日本語の指導など、責任者として勤めたことがあります。また、テーマパーク、テーマホテル等を中心に、観光施設の投資・開発・経営と地域振興との関わりや課題についても研究しています。地域への貢献活動としては自分の職経験や研究成果を活かして、岐阜の企業が中国進出する際もしくは岐阜へ研修生の受け入れなどについて、自分なりの役割を果たしたいと思います。



専任講師 **松浦 康之**

専門分野

生体医工学  
仮想現実  
人間工学  
ヒューマンインタフェース  
データサイエンス

学位・資格

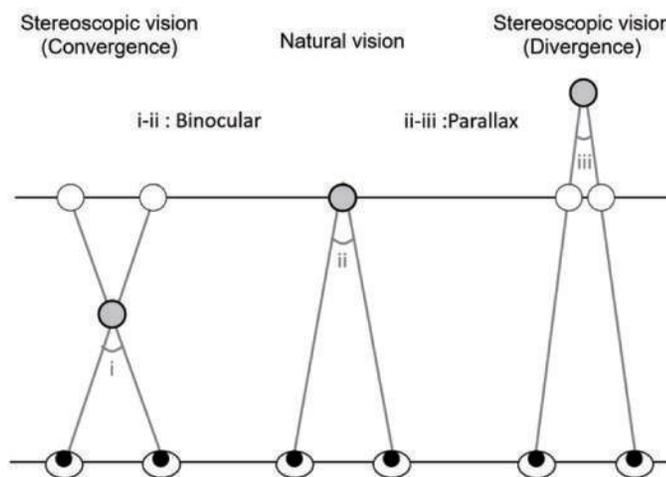
博士（生体情報）

研究者情報  
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

心電図や胃電図、重心動揺などを用いた生体評価や、仮想現実 (VR)・拡張現実 (AR) などの 3D 映像視聴時の生体影響評価に関する研究に従事しています。特に、3D 映像のユニバーサルデザインをめざして、3D 映像酔いの簡易検出・可視化および、その社会的実装のフィジビリティの検討を進めています。また、人工知能を用いたデータ分析やデータサイエンスに関する研究に取り組んでいます。

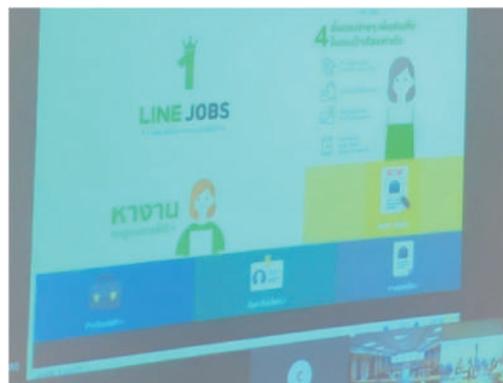


最近の活動紹介

教育活動／研究活動

タイ人学生との交流

国際交流の一環として、日本語を学習しているタイ人学生・留学生との交流（オンライン交流も含む）を行っています。内容は、大学生活や就職活動、政治・経済といった内容について話をしたり、プレゼンテーションを行うだけでなく、観光地・パワースポットやタイコスメ、エンタメメントなど幅広い内容を扱っています。同世代のタイ人学生と交流することは、相手の国や文化、社会に対する興味・理解が深まるだけでなく、視野も広がります。

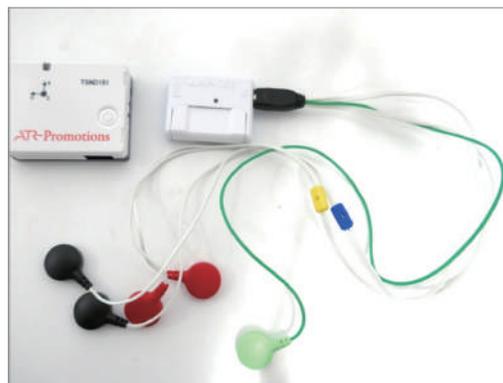


地域貢献活動

企業との共同研究

香りの客観的な評価を行うために、香料メーカーなどと連携して、心電図や胃電図などの生体信号を用いた評価手法の開発を行っています。香料は濃度によって香調が変化することが知られて、嗅覚刺激時の生理応答にも違いがあります。

働く人を元気にするために、従業員支援制度を行う企業などと連携して、ストレスの状態評価や軽減のために、AI や IoT センシング情報を利用した労働者の心身状態推定システムの開発を行っています。将来的には海外の大学などとも連携して、システム開発を進めていく予定です。



# 食物栄養学科

Department of Food and Nutrition

教 授	小野 廣紀
教 授	高橋 秀典
教 授	道家 晶子
准 教 授	堀 光代
専任講師	長屋 郁子
助 手	黒木 由希子
助 手	酒井 千恵
助 手	渡邊 優子



教授 小野 廣紀

専門分野

食品科学  
応用微生物学  
栄養学

学位・資格

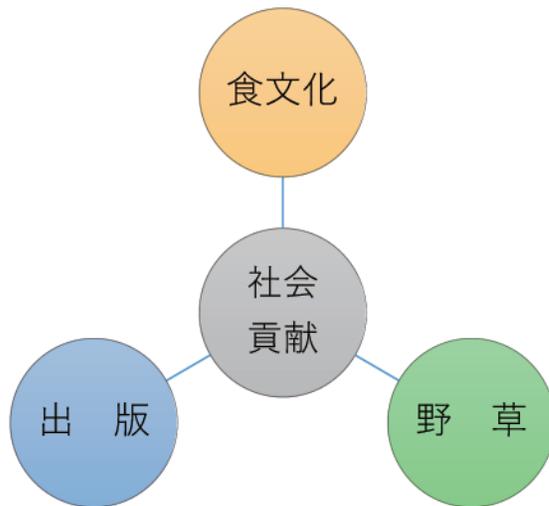
博士（農学）

研究者情報  
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

未利用資源である野草から食品微生物に対する抗菌活性物質を検索し、安全かつ安心できる抗菌剤の開発に取り組んでいます。最近では、国内の外国人が増加するなか、食文化の違いを考慮した食の提供に関する研究にも力を入れています。また、学生向け書籍の出版を手がけています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

おまかせください！栄養士の養成

長きにわたり、栄養士養成のために尽力しています。長年の教育経験を活かして執筆した栄養学や生化学のテキストは、栄養士または管理栄養士養成施設である短期大学・大学で数多く採用していただいております。栄養士・管理栄養士の養成に寄与しています。

- ・一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会長顕彰(2019/11)
- ・令和2年度・栄養関係功労者（栄養士養成功労者）厚生労働大臣表彰（2020/8）



地域貢献活動

公開講座 「こ食」の時代！ご家庭の食卓大丈夫ですか？

「こ食」は、現代人の食卓事情を言い表した言葉です。「こ食」には、「孤食」・「個食」・「子食」・「固食」・「小食」・「粉食」・「濃食」など、漢字で書き表すと7つの「こ食」があり、どれも現代人の食生活の問題点を浮き彫りにした言葉です。今回の講座では、とくに「孤食」に注目して、「孤食」の実態について、多様なデータをもとに、わかりやすく解説し、その問題点を挙げました。また、その関連事項として、本学学生による「高齢者世帯への支援活動の取り組み」についても紹介しました。



教授 高橋 秀典

専門分野

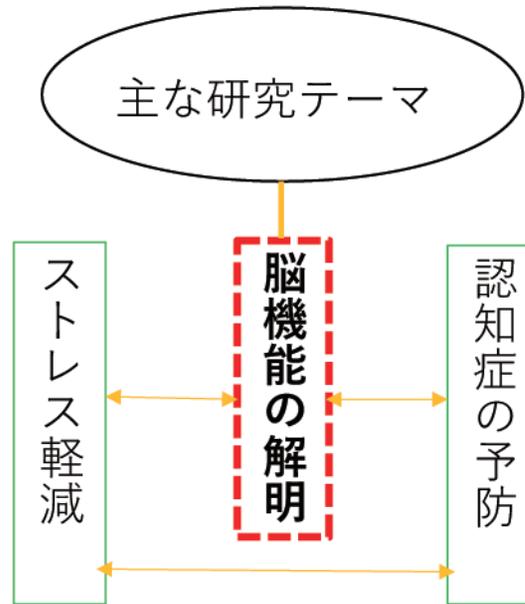
高次脳機能  
自律神経  
認知症

学位・資格

博士（医学）  
医師

専門分野と社会との関わり

以前は、特に認知症の方の脳の機能から見た認知機能や精神世界の研究を中心としておりました。現在は、特に健常者を含め、軽い運動時や、音楽聴取時の心理と自律神経の変化の研究などを行っています。



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

様々な状況での自律神経活動

様々な活動や刺激の前後で、自律神経活動を測定して、リラックス状態かストレス状態かを定量します。特殊な心拍計にて、軽い運動や音楽を聴いた前後、食事の前後などに、自律神経（交感神経、副交感神経）活動を算出、推定し、場合によってはその時の気分を測定できる心理指標を用います。その刺激や活動が、その方にとって生理学的、心理的にどのように作用したかを推定します。

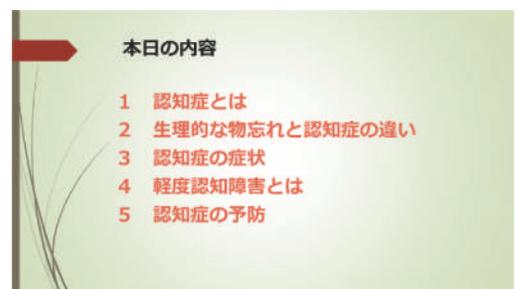


心拍系とPCの解析ソフトを用いて自律神経活動を推定

地域貢献活動

認知症の予防についての講演

毎年ではありませんが、岐阜市生涯学習センターとの連携講座などで、認知症についてのさまざまな情報、例えば有効な予防法や、患者さんの理解のための精神世界、介護者へのアドバイスなどについて、一般の方向けに講演しています。今後は一般の方が必要とされている情報の内容、ニーズがわかればできるだけそれに応じて、認知症のさまざまな事柄を解説していきたいと思っております。

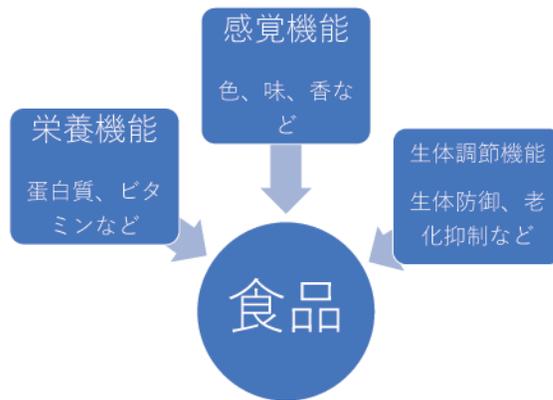


講演に用いるスライドの内容の一例

専門分野と社会との関わり

食品成分、特にビタミンB6と免疫に関する研究、食品とアポトーシスに関する研究を行ってきた。現在は食品機能を持つ岐阜県産食材の探索や、食品機能をもつ加工食品の創造に力を入れています。食生活と栄養に関わる分野、食品をとりまく環境問題にも取り組んでいます。

食品の持つ機能を知って、日常の食品選びに活かしましょう。



教授 道家 晶子

専門分野

食品機能／食品加工  
食品学／食育推進

学位・資格

博士（農学）  
管理栄養士

研究者情報  
(Research Map)



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

「機能性米の分析と加工に関する研究」

機能性米とは、高血圧症、高脂血症、糖尿病、腎臓病と言った生活習慣病や、スギ花粉症、アトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患の予防もしくは治療効果を期待した米です。例えば、高血圧対策米、低たんぱく米などがあります。試料にLGCソフト（低グルテリン性と低アミロース性を組み合わせた複合新形質米系統）を用いて、米のたんぱく質のグルテリン定量を行い、栽培時期と窒素肥料の影響を分析しました。また、低たんぱく米粉を活用した加工品の提案を行い、食品加工時の試料の適性を検討しました。

低たんぱく米を用いた新規加工品

- ①低たんぱく糎米団子 ②コナッツアイス
- ③米粉クッキー ④米粉蒸しパン

の4種類を食物栄養学科学生達と考え、試作、提案した。



地域貢献活動

「岐阜産食材を活用した健康法」

岐阜には、飛騨美濃伝統野菜、米などの農産食品、飛騨牛や奥美濃古地鶏などの畜産食品、長良川の鮎をはじめとする水産食品があります。また、岐阜県民の栄養調査結果では、野菜摂取量の不足が顕著で、栄養バランスの崩れも見られます。そこで、岐阜県産野菜および果物の生産ランキングから、毎日の食生活に活用する方法を提案し、地産地消の促進とコロナ禍における免疫力を高めるための食品選びについて講演しました。

岐阜県の野菜ランキング

農林水産省統計2018より

順位	野菜	収穫量	割合	全国の収穫量
1位	きゅうり	356トン	28.6%	1,234トン
4位	モロヘイヤ	38	4.38	1,266
6位	ほうれん草	30,000	4.38	228,300
8位	トマト	22,700	3.13	724,200
11位	大豆	1,310	2.05	63,800
13位	にんじん	5,280	0.92	574,700

准教授 堀 光代

専門分野

食生活学  
生活科学

学位・資格

修士（教育学）  
管理栄養士

研究者情報  
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

調理学と食品衛生学分野の講義等を担当しています。

大学生・短期大学生の調理の知識と技術における調理実習の効果について研究しています。2013年から「伝え継ぎたい岐阜県の実家庭料理」の聞き書き調査を開始しました。書籍の発刊や新聞の連載を通して成果を発表し、岐阜県の食文化の啓発に力を入れています。短期大学生に正月料理や郷土料理に対する意識調査を行い、次世代への継承に繋がりたいと取り組んでいます。

• 大学生の調理の知識と技術についての研究

調理学



• おせち料理の準備と喫食状況・意識調査

行事食



• 伝え継ぎたい岐阜県の実家庭料理に関する調査

岐阜県の実家庭料理



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

「大学生の調理の技術と知識」・「市販食品の食品添加物」の調査研究

「調理」に関するテーマでは、他大学との共同研究で大学生の調理における包丁操作や料理の自信度など、調理の知識と技術について継続的な調査を行っています。

卒業研究ゼミでは「調理学」・「食品衛生学」の分野から調査研究を行っています。これまで正月料理の意識調査とおせち料理の喫食調査を行いました。また、市販おにぎりの食品添加物調査や市販ハムの発色剤の分析実験を行い、「食の安全性」について考えています。



包丁操作・切り方の自信度に関する研究

市販食品の食品添加物分析・実態調査

地域貢献活動

次世代に伝え継ぎたい岐阜県の実家庭料理

全国の実家庭料理の聞き書き調査を所属学会で実施し、岐阜県の内容を季刊誌や書籍にまとめています。ネットワーク大学コンソーシアム岐阜 2018 年度公開講座「岐阜を知ろう、さらに識ろう」に話題を提供しました。また、岐阜県内の先生方と協力して新聞に「伝え継ぎたい岐阜県の実家庭料理」を連載しています。

岐阜県の実家庭料理を通じて新たな発見や親子間・祖父母世代との対話など、地域の料理に少しでも関心を持っていただければと思います。



長良川鵜匠家の鮎なれずし

白川郷のホンコサマ（報恩講）料理

専門分野と社会との関わり

子どもの発育や食習慣の形成、働く世代の生活習慣病予防、超高齢社会におけるフレイル予防など、各世代に応じた健康づくり・栄養教育に関する研究を行っています。野菜摂取向上を目指し、食環境整備や地域食材の活用について提案しています。また、岐阜県の伝統的な家庭料理を調査・研究し、それを基に次世代へ継承する食育を実践しています。さらに伝統的な地域食材を、災害等に備えた食生活で活用する提案や教材研究に取り組んでいます。

専任講師 **長屋 郁子**

専門分野

栄養教育  
食育  
食生活

学位・資格

修士（生活科学）  
管理栄養士

研究者情報  
(Research Map)



ライフステージに応じた健康づくり・栄養教育

- ・離乳食、幼児食を通じた子育て支援
- ・生活習慣病予防、フレイル予防を意識した食環境整備

地域を基盤とした食育

- ・岐阜県の伝統食に関する調査研究、次世代への継承
- ・災害等に備えた食生活の提案

地域の健康増進

最近の活動紹介

教育活動／研究活動

地域の健康づくりのための食環境整備

担当科目の食物栄養学科「栄養指導論実習Ⅱ」では、様々な健康課題やライフステージを想定し、栄養教育の実践力習得を目指します。実習内容には、実際の栄養教育を学ぶ機会を取り入れるよう工夫しています。2020年度は、岐阜市健康増進課の食環境整備事業の一環に携わり、複合商業施設「アクティブ G」の飲食店と協力して『健康メニュー』を考案し、提供。減塩や野菜摂取向上など、健康づくりのための食環境整備の重要性を学びました。



飲食店と学生の打ち合わせの様子

地域貢献活動

災害時などに備えた食生活の提案

家庭で食べながら食料を備蓄する「ローリングストック」の普及・定着を目指して、各世代に応じた備蓄レシピを考案し、食育教材を作成。常温保存しやすい野菜、乾物、缶詰・レトルトパウチ食品等を使い、不足しがちな野菜類を日常、災害時問わず手軽に取り入れる工夫を紹介しています。この取り組みの一部は、岐阜市男女共生・生涯学習推進課「女性視点で考えた減災対策」とコラボレーションし、市民の各世代にむけて情報発信しています。



上：パッククッキング「枝豆コーンご飯」  
下：空き缶クッキング「切り干し大根ラタトゥイユ」

助手 黒木 由希子

教育・研究・地域貢献等への抱負

実習や実験において、学生が栄養士になるための知識を習得する手助けをしています。

実習、実験の内容は科目によって多岐にわたります。それぞれに応じて、授業が円滑に進められるように準備をしています。授業中はクラス全体に気を配り、困っている学生には声をかけて、必要であればアシストしています。授業後も学生の質問に対して個別に対応しています。これからも学生にとって質問しやすい身近な存在でありたいと思います。



助手 酒井 千恵

教育・研究・地域貢献等への抱負

本学では「健康の保持増進に役立つ幅広い視野と科学性に富む人材育成」という教育目標のもと、「栄養士」を育成しています。高度な専門知識・技能を修得するために多くの実習・実験を取り入れています。その中でも主に調理実習を中心に、授業がスムーズにまたより深く理解できるようにサポートしています。短大に入学して初めて調理をする学生に対しても「調理って楽しい!」と思ってもらえるように親身になって学生をサポートすることを心掛けています。



## 教育・研究・地域貢献等への抱負

食物栄養学科の授業では「食」「栄養」「健康」に関連する幅広い知識を学ぶために様々な実験・実習があります。講義形式の授業と異なる実験実習では、第一には怪我や事故のないよう配慮し、わからないことがあればその場で理解できるまで個々に対応しています。特に薬品を扱う実験は馴染みのない学生が多数のため、苦手意識をもつことのないよう、より細やかなサポートを心がけています。常に学生が学びやすく過ごしやすい環境を整えるべく取り組んでいます。

助手 渡邊 優子



# 生活デザイン学科

Department of Design for Contemporary Life

## ファッション専修

教授 福村 愛美  
准教授 太田 幸一  
准教授 中谷 友机子  
助教 柴田 佐和子

## 建築・インテリア専修

教授 服部 宏己  
准教授 畑中 久美子  
専任講師 臼井 直之  
専任講師 加藤 祥子

## ヴィジュアル専修

准教授 奥村 和則



教授 福村 愛美

専門分野

被服心理学  
服飾造形

学位・資格

博士（環境学）  
修士（家政学）  
中学校・高等学校教員免許（家庭）

研究者情報  
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

衣服や繊維製品についての商品開発の糸口となるような感性工学的な研究を行っています。アンケート調査を基に消費者の意識を被服心理学の観点で分析します。今までは体型カバーファッションや、倉敷帆布、介護ユニフォームなどについて意識調査をし、分析、考察して、デザイン提案をしてきました。

今後は環境に配慮した衣料品のあり方について SDGs（持続可能な開発目標）の取り組みも考えながら研究を進めたいと考えています。



帆布



倉敷帆布の試作品/リュックサック



倉敷帆布の試作品/ポーチ



倉敷帆布の試作品/かご

最近の活動紹介

教育活動/研究活動

介護ユニフォームの提案

介護施設の環境を整え、慢性的な介護士不足の改善に貢献できるような介護ユニフォームを提案するために介護士の方を対象に介護ユニフォームの意識調査を行いました。調査から介護ユニフォームに適した色や柄、必要とされる生地機能や、イメージ分析を行いました。その結果介護ユニフォームのデザインに対する満足度はあまり高くなく、イメージとしては温かみのある自然なイメージが好ましいと考えられていて、清潔感が重要視されていることが明らかになりました。



重要だと思われる介護ユニフォームの生地の機能

地域貢献活動

翔工房（学生のアイデア×匠の技）プロジェクト

翔工房は、愛知県一宮市にある公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターが主催する人材育成事業のひとつで、通算 12 回目を迎える中で、本学の参加は 9 回目です。今年度は、生活デザイン学科ファッション専修の学生が選出され、事業に参加しています。翔工房とは尾州産地の「匠」と呼ばれるテキスタイル職人と学生のコラボレーションによって新しいテキスタイルをつくり上げ衣装を制作する、一宮地場産業ファッションデザインセンターの人材育成事業です。



2020 年度 参加作品

専門分野と社会との関わり

織物・編物の製造技術を中心に研究を行っており、織物の出来上がりの状態の確認を簡単にできるように、織物シミュレーション技術の研究を行っています。また、布の肌触りや着心地に関する研究も行っています。近年は洗濯に関する研究を行っており、洗濯機の効率や、洗濯と環境問題に関する研究も取り組んでいます。

准教授 太田 幸一

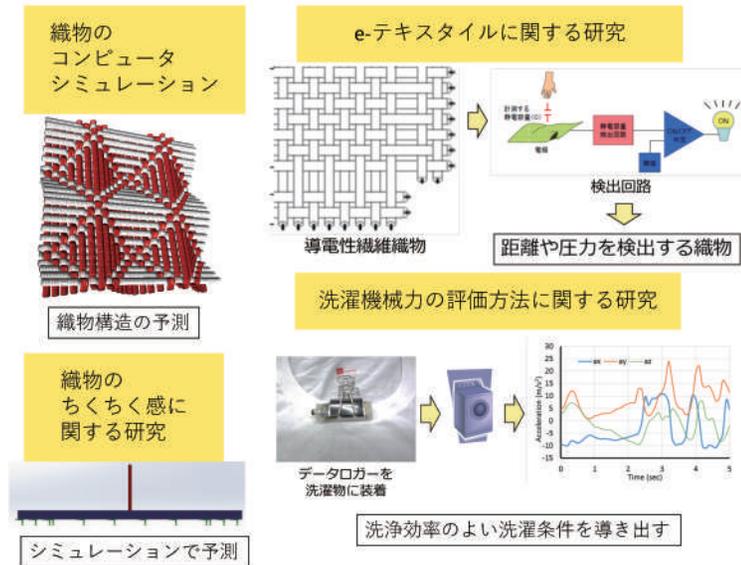
専門分野

繊維工学  
被服材料学  
被服整理学  
被服衛生学

学位・資格

博士（工学）  
第1種情報処理技術者

研究者情報  
(Research Map)



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

繊維材料のリサイクル技術に関する研究

ブランド品の大量廃棄やプラスチックゴミによる環境汚染が社会問題となっています。そこで、高級衣料品に使われることの多い絹製品のリサイクル化を検討し、生分解性材料に再利用する研究を行いました。絹の屑からタンパク質を抽出し、凝固液で固化させたり、他の水溶性タンパク質と混合して再利用できる材料を作成する手法を開発しました。

また、凝固液の種類による効果などについては卒業研究で検討してもらっています。



地域貢献活動

科学の視点で洗濯の知識を学ぶワークショップ

岐阜市は男性も家事・育児に参画する必要が高まっていることから「男の家事力UP化」を推進していることから、家事の一つである洗濯についての男性も参加できるようにとのことでワークショップを行いました。ワークショップでは災害時にも役立つ手洗いによる洗濯の実験と、アイロン実習、汚れを落とす実験を行いました。グループ毎に洗剤の量等の条件を変え、汚れの落ち具合の比較を行い、洗剤を正しく計ることや洗濯物を入れすぎないことなどの理由を体験してもらいました。



専門分野と社会との関わり

ファッション業界の流通・社会背景・流行動向・世代特徴の関わり  
の研究から、需要と供給の流動性を研究しています。また、この流動  
性の把握から今後のファッションの動向を研究しています。

准教授 中谷 友机子

専門分野

ファッションビジネス  
ファッション造形  
ブランドマーチャダイジング  
マーケティング  
パターンメイキング  
縫製指導、等

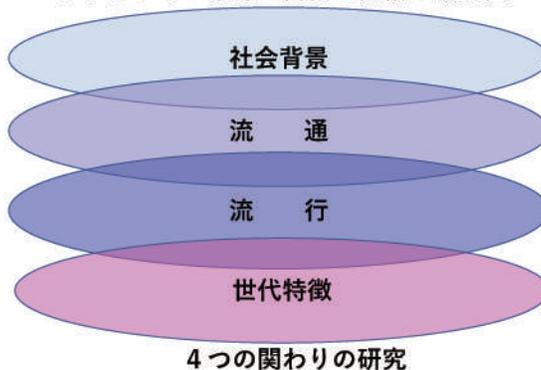
学位・資格

修士（化粧ファッション学）  
洋裁検定上級 4299 号（1980）  
学芸員 009 号（2006）

研究者情報  
(Research Map)



ファッション業界の需要と供給の流動性



2018年2月出版 研究の年表作成CD付

最近の活動紹介

教育活動／研究活動

学生教育活動として、柳ヶ瀬通りや中心街のファッション専門店を市場調査研究をしています。また、学生デザイン制作作品を店舗においていただき販売研究をしています。



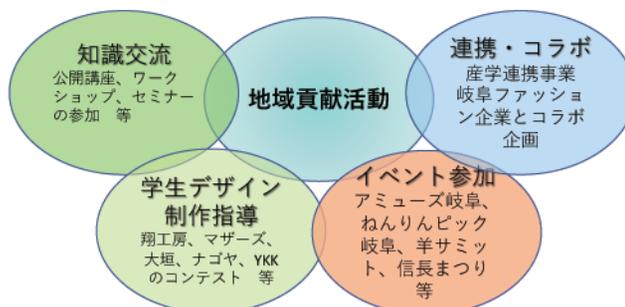
教員研究活動として、Natural fiber の特徴を活かした様々なオリジナルファッション製作・展示しています。



地域貢献活動

地域の交流・指導・連携

公開講座、ワークショップ開催、学生コンテスト参加の制作指導、岐阜ファッション企業とコラボ企画、セミナーの参加、個展開催、岐阜市イベントの参加、産地イベントの参加、産学連携事業実施、など、様々な地域貢献をしています。



## 専門分野と社会との関わり

生活には欠かすことのできない衣服をより良いものにするために、繊維の機能化による布の物性変化について、素材の力学特性が衣服の形成性に及ぼす影響についてなど、衣服の快適性について素材と衣服造形の両分野から研究しています。また、産地企業との協働によるデザイン開発の取り組みにも参加しています。



助教 柴田 佐和子

## 専門分野

服飾造形  
アパレル科学

## 学位・資格

修士（生活科学）

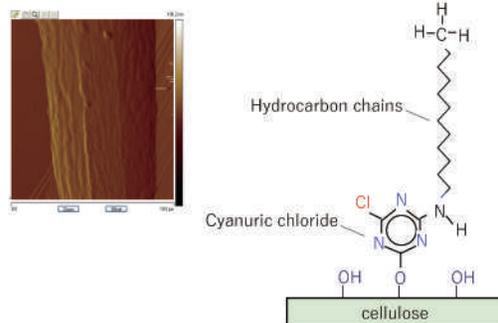
研究者情報  
(Research Map)

## 最近の活動紹介

## 教育活動／研究活動

## 繊維表面改質布の表面形状と特性の変化に関する研究

セルロース繊維に炭化水素鎖（疎水基）を固定化し繊維表面を親水性から疎水性へ改質することで、繊維の表面形状及び特性にどのような影響を与えるのかを検討しています。これまで、綿布に炭化水素鎖を固定化することにより繊維間の摩擦力が低下し手触りにも変化が認められました。さらに単繊維表面の形状及び特性を観察したところ、炭化水素鎖が単繊維表面のほぼ全面に固定化されている様子が認められ、布の状態で機能化処理をしても単繊維表面を被覆し、粘弾性の変化が大きな表面に変化することが明らかになりました。



## 地域貢献活動

## ウール素材を活用したワークショップの開講

地元産地の尾州産地では毛織物が多く生産されています。このことから、ウールをより身近に感じてもらうことを目的に、ウール素材を活用したワークショップを開講しています。これまで、アームニット（腕編み）を利用したスヌード作りや電子レンジを利用したウールのレンジ染めを行い、いずれのワークショップも楽しみながらウールに親んでもらうことができました。今後も、産地と連携しながらウール素材を活用したワークショップの開催を計画しています。



専門分野と社会との関わり

真空脱水コンクリートの品質改善に関する研究、耐震診断および耐震改修工法に関する研究を行ってきており、現在は特に建築構造教育ツールの開発に関する研究に力をいれています。多数の構造設計の実務および耐震診断・耐震補強の審査委員も行っており、自然災害に対し安全・安心な建物や構造技術・構造教育の開発に取り組んでいます。

教授 服部 宏己

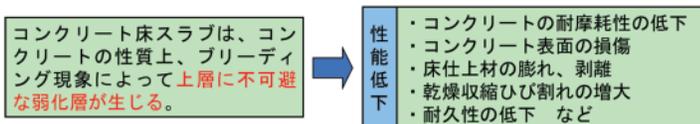
専門分野

コンクリート工学  
構造設計  
耐震診断・耐震補強  
構造教育

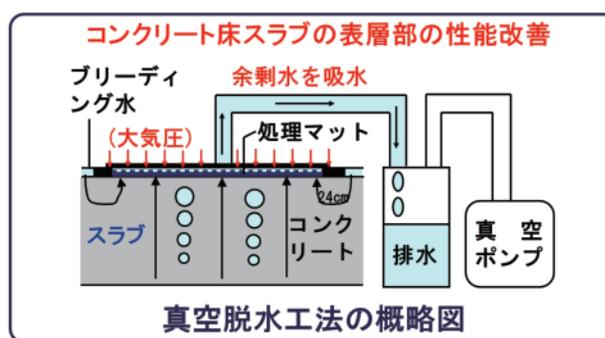
学位・資格

博士（工学）  
一級建築士

研究者情報  
(Research Map)



真空脱水工法は、これらの問題を根本的に改善する工法

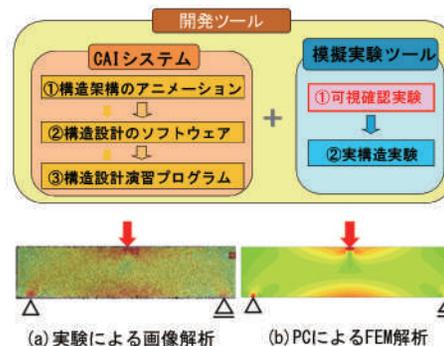


最近の活動紹介

教育活動／研究活動

視覚的に理解できる建築構造教育ツールの開発

近年、全国各地で地震が多発し、南海トラフ巨大地震の発生が叫ばれている中で、建物の安全性に対する社会的な要求が急速に高まっています。建築を志す初学者においては、建物の耐震性を学ぶ際に、理論的に煩雑であることから建築構造を苦手とする学生は比較的多いのが実情です。そこで、理系科目を苦手とする文系学生にも理解しやすいように、視覚的に理解し体験できる建築構造教育ツールの開発に力を入れています。



地域貢献活動

「かがしマルシェ」ワークショップ

西岐阜エリアにある鏡島弘法は、毎月 21 日に縁日が開かれ、特に高齢者の人々の憩いの場となっています。「マルシェ」とはフランス語で、直訳すると「市場」を指しますが、人と物が集まるイベントであり最近特に若者に人気のある催し物です。高齢者が集まるお寺で若者に人気のマルシェを開くという計画（お寺マルシェ）に本学学生が参加協力しました。ピラミッド型の屋根形状のブースの設営補助と会場内サインの設置に加え、受付や飲食店の手伝いなどを行いました。



生活デザイン学科  
建築・インテリア専修

准教授 畑中 久美子

専門分野

建築設計  
地域・環境デザイン  
環境共生建築 / 低炭素都市 / ドイツのまち

学位・資格

博士（学術）  
一級建築士

研究者情報  
(Research Map)



専門分野と社会との関わり

パッシブデザインおよび自然素材を用いた建築・インテリアのデザインおよびワークショップによる自力建設を行います。古来からある土造り（版築・練り土積み、団子積み）の小屋や土塀の事例調査。欧州の低炭素都市づくりや、環境共生建築の研究。土や木材、竹、紙等の地域素材を用いて、原寸大の建物や家具づくりをおこない、「手を動かして考える」体験的な教育を実践します。過去にパキスタン地震における住宅再建プランの立案にも携わりました。



最近の活動紹介

教育活動 / 研究活動

日本における土石積み構法に関する研究

日本には木軸に小舞を編んで土を塗った土塗り壁の他に、土石積みそのものが構造体となった小屋や塀が現存しています。奈良県にある山の辺の道周辺のみかん小屋、大分県国東半島的小屋、兵庫県丹波篠山市にある灰屋（はんや）について実測調査および聞き取り調査を行っています。調査対象の土石積みの塀や小屋はいずれも耐用年数が長く、100年以上前に建てられたものも多くありました。持ち主の高齢化や農業方法の変化により、これらの小屋は使われなくなり、解体の危機に瀕しています。そのため、記録資料としても貴重であると考え、研究を続けています。



地域貢献活動

こよみのよぶね行灯制作

生活デザイン学科の畑中ゼミ1年生によって行灯をつくっています。2019年は9月、と2020年は4月の行灯を制作しました。建築・インテリア専修の学生のみならず、ファッション、ビジュアル専修の学生も交ざってお互いの得意分野を發揮しながら制作を進めています。学内で制作した行灯は冬至の日に他のチームの方々と協働して鵜飼船に乗せて、お披露目し、長良川を彩ります。学内での制作をとおして、地域の方々の協働作業や交流につながる貴重な機会となっています。



生活デザイン学科  
建築・インテリア専修

専門分野と社会との関わり

公共施設や住宅の、計画や設計を行っています。公共施設については、その施設がその地域の中でどのようにあるべきかを考えています。また、建築の規模に関わらず、持続可能な社会の実現に向けて、環境への配慮や地域の材料の活用を心がけています。近年は、中山間地域に存在する大規模な別荘地の調査を行っています。



専任講師 臼井 直之

専門分野

建築計画  
公共施設設計  
地域デザイン

学位・資格

修士（建築学）  
一級建築士

研究者情報  
(Research Map)



最近の活動紹介

教育活動／研究活動

スケールを往き来しながら建築や都市と向き合うこと

商店街に建つビルの一室のリノベーションのような比較的小さなプロジェクトや、多くの人が利用する都市公園とその公園内の施設の設計をしてきました。さらに、中山間地域において数百ヘクタールにも及ぶ別荘地の実態解明のための研究を行っています。それらは、着眼点や規模が全く異なりますが、共通していることは人が利用するという事です。建築や都市を、人が日常生活を営むための総合的な環境の一部として捉えるように心がけています。



地域貢献活動

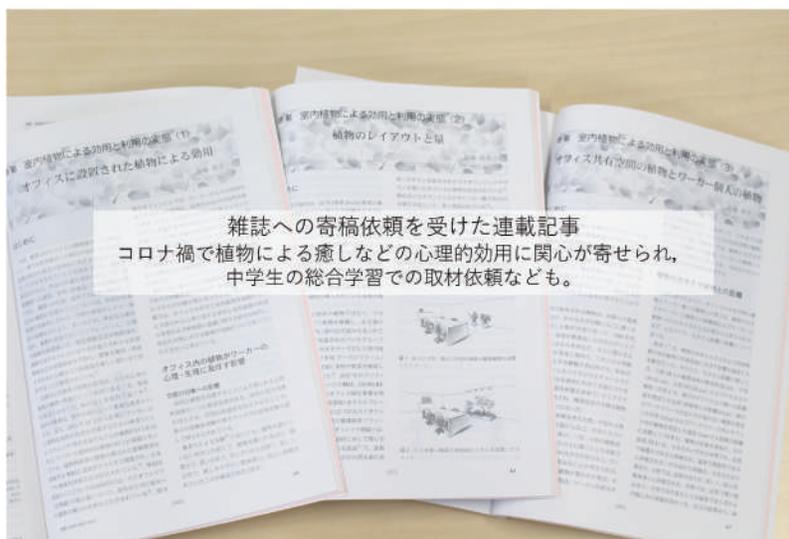
設計者選定プロポーザルや審議会における委員

公共施設の設計者選定プロポーザルの委員や、施設づくりが始まってからのデザイン会議の委員のほか、都市計画および景観に関する行政の審議会の委員なども行っています。いま決めたことによって、10年後にその地域が自分たちの力で動き出しているかという視点で物事を捉えるようにしています。そのため、日頃から街を歩き、市民や学生との意見交換を大切にしています。



専門分野と社会との関わり

身近な自然、植物が人間の心理に及ぼす影響に関する研究を行っています。人々が快適に、健康的に、生活するには、身近な空間に自然の要素は欠かせません。一方、そういった認識は経験上では持たれていますが、科学的な証拠(エビデンス)は十分には認識されていません。それらを研究で明らかにするとともに、既往の研究によって明らかにされている知見をまとめ、課題を抽出する取り組みを行っています。



雑誌への寄稿依頼を受けた連載記事  
コロナ禍で植物による癒しなどの心理的効用に関心が寄せられ、  
中学生の総合学習での取材依頼なども。

専任講師 加藤 祥子

専門分野

建築物緑化  
室内緑化  
環境心理

学位・資格

博士(学術)

研究者情報  
(Research Map)



最近の活動紹介

教育活動/研究活動

室内植物による騒音の不快感の軽減効果

中国の北京、上海などの大都市では、大気汚染や騒音問題など、住環境の悪化が進んでいます。それに対して、人々の健康に対する意識は向上しており、環境改善などを期待して、住宅室内でも植物が積極的に利用されています。騒音の程度が異なる二つの条件で、植物を置いたリビングと置いていないリビングで、室内の環境を評価してもらう実験により、室内の植物は、騒音による不快感を和らげる効果があると示すことができました。



地域貢献活動

公開講座「和みのインテリアプランツを作ろう」の実施

多くの時間を過ごす室内空間に置かれた植物は、人々に安らぎなどを感じさせてくれます。インテリアを彩る植物を作るワークショップ型の公開講座を行っています。土の部分丸くまとめて表面にコケを張って仕上げる苔玉や、プリザーブドプランツを使って長く楽しめるミニサイズのクリスマスリースを作りました。これらの講座を通じて、人々に身近な空間で植物に触れる機会を提供していきたいと考えています。



専門分野と社会との関わり

情報伝達するメディアの特性を活かした情報発信の方法や、パッケージを含めた立体物とデザインについて、制作や企画、監修をしております。

また、伝統工芸とその技能を現代のライフスタイルに合わせた取り組みを、学生とともに研究しており、デジタル・ファブリケーション（デジタルデータをレーザー加工機や 3D プリンターなどを用いて制作する方法）による解決などの提案をいたします。

准教授 奥村 和則

専門分野

メディアデザイン  
伝統工芸と造形  
デジタル・ファブリケーション  
情報デザイン

学位・資格

修士（学術）

研究者情報  
(Research Map)



アクリルによるタペストリー



伝統工芸の取り組み 作例



3D プリンターを活用した行灯

最近の活動紹介

教育活動／研究活動

情報モラルを高めるための取り組み

オンライン活用の重要性が高まる今日において、情報モラルやネットリテラシーの向上も重要であるといえます。特に、児童が単独でネットワークを使用するケースが増加していることから、児童に対する情報モラル向上が社会的にも急務だと考え、高大連携プロジェクトとして岐南工業高校の皆さんと本メディアデザイン研究室ゼミ生とで取り組みました。今後、オン / オフラインの両場面での活用を視野に、継続的に取り組んでいきます。



情報モラルかるた（仮箱）

地域貢献活動

地域文化財の修繕（鶺鴒神社「尾なし龍」の修繕）

2001年に岐阜市文化支援活動の一環として、創作音楽劇「尾なし龍」が公開されました。そして、その劇中に登場した龍の立像を、民話のもととなった鶺鴒神社（岐阜市東鶺）へ、2017年4月に移設、奉納されることとなりました。拝殿内に設置されたもの、経年劣化や台風時の風雨などにより破損が著しかったため、民話「尾なし龍」保存会からの依頼のもと、モチーフを維持したまま、修繕活動を学生とともに実施しました。



龍立像修繕前（左）、修繕後（右）

## 岐阜市立女子短期大学 Staff Profile 2022

---

企画・編集 岐阜市立女子短期大学 広報委員会

発行 2022年4月

©2022. Gifu City Women's College, All Rights Reserved.

---



岐阜市立女子短期大学  
Gifu City Women's College

〒501-0192 岐阜市一日市場北町7番1号  
TEL:058-296-3131 FAX:058-296-3130  
<https://www.gifu-cwc.ac.jp/>